

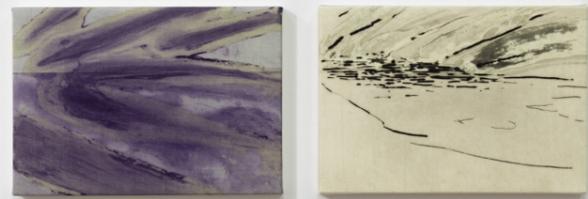


# 銅×芸術

COPPER ART



## 銅版画の世界



空谷圭章  
Mokutani Yoshiaki



作品名上から The glowing sea surface #3 (2022) / The sky over the hill #1 (2023)  
/ Town on the Horizon #1 (2024) / In the distant mountains #1 (2024)

### 銅を使った アートの世界

15世紀中頃のルネサンス時代のイタリアに誕生し、今なお多くの人々を魅了し続ける銅版画。その繊細な線と深みのある表現は、なぜこれほどまでに心を惹きつけるのか。銅版画家として活動しながら版画LABO講師として務めている空谷圭章さんのアトリエに取材にうかがい、銅を使ったアートの魅力に迫った。



▲取材中の空谷さん。大学で使用する資料や実際の銅版を用いながら、分かりやすく説明していただいた。



▲乾燥中の銅版画作品。異なる左右の絵が対になってひとつの作品となっている。

#### 銅版画とは

向かったのは埼玉県所沢市。閑静な住宅街にたたずむマンションの敷地の一角に平屋の建造物がある。そこにはさまざまなジャンルのアーティストたちの工房が集まっているのだが、空谷さんもその建物の中にアトリエを構えているひとりだ。まずは銅版画とはどのようなものなのか、伺ってみた。

「版画というのは大きく4種類ありまして、シルクスクリーン・リトグラフ・木版画、そして銅版画です。板を彫って、彫り残したところにインクが付くのが木版画。銅版画は逆で、溝のなかにインクを詰めて余分なところをふき取っていきます。木版画が

凸版で、銅版画が凹版、ということになりますね」

さらに、銅版画の技法や歴史を説明していただいた。

「銅版画は直接法と間接法の大きく二つに分類されます。直接法は、版に直接手を加える技法で、代表的なものにエングレーヴィング、ドライポイントといったものがあります。エングレーヴィングは、ビュランという工具で銅板を直接削ってシャープな線を表現する最も古い技法のひとつで、お札の肖像画などにも用いられています。ドライポイントは、ニードルで銅板に直接傷をつけ、そこにインクが溜まることで滲

#### 銅版画に魅せられて

「版画なんか向いてるんじゃない」、高校生の頃に先生からそう声をかけられたことがきっかけで、空谷さんは版画の世界に興味を持つようになる。空谷さんは油絵の匂いが苦手だったそうで、先生のその一言が大きな転機となった。

版画の中でも空谷さんが銅版画に惹かれた理由のひとつに、その線の魅力がある。点描のように細いペンで緻密な表現をしていた経験から、細く鋭い線を表現できる銅版画に魅力を感じたそう。

「描いたものが直接出てくるのではなく、製版とインク詰め、そしてプレスという工程を経て初めて作品となる点に、物作りとしての面白さを感じました」

「銅版画特有の線の強さも魅力です。溝に押し出されたインクが紙に定着すること、フラットでありながらも存在感のある線が生まれます。他の版画技法と比較すると、リトグラフのような平版印刷とは異なり、銅版画には版に凹凸があるので、刷り上がりの感触や視覚的な印象も異なります」

#### アート作品に魅せられて

空谷さんの作品のテーマのひとつは、空間の表現だ。作品の多くは二つの画面を並べるという形式を取っており、余白のバランスや互いの距離感を非常に重視しているのが特徴だ。版画が紙という媒体で制作されること、そしてその余白によって作品の見え方が大きく変わることに着目したことがきっかけとなった。鑑賞者が二つの作品を反復して見比べることで、記憶が重ね合わされ、頭の中で新たなイメージが組み上がっていく過程を楽しんでほしいという想いも込められている。

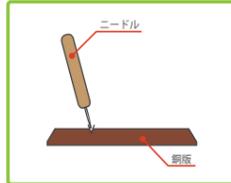
「最近では、銅版画を印刷する際に緑青を生成させるといった独特の技法に取り組んでいます。予期しない魅力的な色彩が生まれますし、一点ものの作品ができあがります」

「顔料そのものから自作することにも興味があるので、より自身の意図する色彩表現を追求したいと考えています。光の当たり方によって見え方が変化する顔料も作品に取り入れて、時間や場所によって異なる表情を見せる作品制作にも挑戦しています。時間の経過による光の変化を作品に落とし込みたいんです。写真のように一瞬を切り取るのではなく、長い時間の中で変化していく光の様相を表現することを目指しています」

銅版画の表現方法は無限に広がる。空谷さんの独創的な視点と確かな技術によって、これからの素敵な作品が生まれ出されると考えると、とても楽しみです」

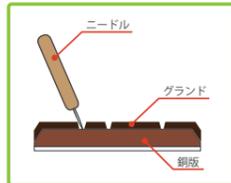
#### ドライポイント / Dry point

版に直接傷をつけて版を作る方法です。特徴は版上の凹線に沿ってささくれのように盛り上がる。このささくれをバール (burr【英】まくれ) と言います。このまくれの隆起にインクがひっかかり、やわらかい滲んだような表情に刷りあがります。



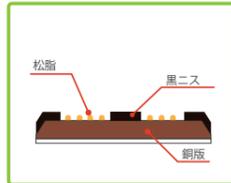
#### エッチング / Etching

版面をグラウンド (耐酸性防蝕膜) で被い、それをニードルなどでひっかいて描画した線や点を酸で腐蝕して溝を作る技法です。エッチングの線の強弱は、腐蝕時間の長短によって決まります。線の強弱を求めるときは最初に強くしたい部分だけ腐蝕し、徐々に描き足しながら腐蝕を繰り返していく方法があります。



#### アクアチント / Aquatint

面で灰色から黒までの階調を表現するときに適した腐蝕法のひとつです。防蝕剤として使う松ヤニ粉末の粒子の大きさと腐蝕時間の長さによって、いろいろな調子を作ることができます。



▲空谷さんのエッチングの説明 (グラウンドをニードルで引っ掻いているところ)。



▲アトリエ風景。緑青の出方を試した銅板や顔料が並ぶ。